

知れば知るほど見えてくる。
もの知り“ウググラ博士”のちょっとしたおせっかい。

皆さんの「家」選びの基準は何ですか？
最近では様々な情報が飛び交い、
自分たちが何を求め、何を調べたいのか…
分かりにくかったり、判断が難しいことばかりですね。
…おっと、ここにも悩める人がいますよ。

いい季節になったなあ。ついこの間まで寒くて、朝、布団から出るのも億劫だったり、お風呂場が冷たくてつらかったり…。さあ、ようやく暖かくなつたら、ストーブやホットカーペット、コタツにパネルヒーター…。いろいろある暖房器具を片付けなくちゃいけないなあ。これが結構、ひと苦労なんだよね。

おや、そんなにたくさん暖房器具を使っているのですか!!

え、あなたは誰ですか？

私は「ウググラ」博士。

(突然なんだ、この…人?)
そりゃあ、寒ければ、寝室やキッチン

チンはもちろんのこと、脱衣所、トイレだって暖かくしないと暮らせないでしょ。少しでも快適に、と考えたら、これくらいの暖房器具は当たり前。できれば浴室暖房や床暖房も入れたいくらいですよ。

でも、結局は暖房器具をいろいろ入れたって家の中の温度差は

無くなりませんよね。タイマーを使ったりして、朝、布団からは出られても、その部屋から廊下には出られない。脱衣所は暖かくできても、お風呂場は冷たくつらいまま。家の中の温度差を無くすために設備を用意すると言つことは、電気などの消費エネルギーも大きく、設置するスペースも必要になる。それっ

求めていた快適って?

「家」を知れば、

暮らししが変わる!



て、あなたが求めている快適な暮らしなのでしょいか? 何だか設備と温度差のイタチごっこを繰り返しているみたいですよ?

どの家でも、そんなんじゃないの!? これまでもそうやって暮らしてきたし…。

確かに。でもちょっと考えてみてください。設備で満足する「家」って、車の性能を無視してカーナビやステレオなどに夢中になっているようなものじゃないですか? でも大切なのはエンジンなどの基本性能でしょう!

「家」も同じです。「家」の性能がちゃんと優れていれば、「家」の中には温度差がないものです。リビングも、トイレも、1階も2階も、同じ環境で暮らせるのです。つまり、住んだその日から「快適な暮らし」が実現するのですよ。注目すべきは「家」の性能。

それが優れていれば冷暖房効率が良いなり、「快適な暮らし」をより少ないエネルギーで手に入れることができる…まさに一石二鳥なのです。

へえ、**「家」自体の性能**ね。それって、最近よく聞く『高気密・

高断熱』のことかな? それなら、最近はこの住宅メーカーも声高にうたっているよね。結局どこも同じなんじゃないの?

日本では「家」自体に大きな違いがあるとは誰も思わないんですよ。『この家もみんな同じ』だと最初から決めつけているところが残念です。『高気密・高断熱』という同じ言葉を使っている、はつきりとレベルに差があります。

そう言われると、「家」の性能の問題とか、違いとかあまり考えたこともなかったかも…。でも、「快適な生活」に必要な性能ってどうやって確かめればいいのか? 専門家じゃないし、性能や快適は見比べられないし。

確かに難しい問題です。しかし、家の快適性を示す「ものさし」としてC値(気密性)・Q値(断熱

性)という数値があります。C値もQ値も1軒ずつ違うものです。Q値は間取りが決まれば計算できます。C値は家が出来上がった実測しないとわかりません。つまり、家ごとにQ値を計算し、C値を測定して初めてその「家」が快適かどうか確かめることができるのです。

ええ!? 住宅の性能を数値で確認できるの? そんな数値があったんだ。…今まで聞いたことなかったよ、C値やQ値って。

C値もQ値も、値が低いほど優れているのですが、どちらか1つだけではダメなんです。この2つの数値がバランスよく整い、優れていなければ快適な室内環境はつくれません。この「快適さ」は、まるで別世界のよう。一度、体感してみたらその快適さの違いがわかると思いますよ。

ウググラ博士が教えてくれた新しい「家常識」。
設備に頼り、設備ばかりを比べては、
本当に快適な「家」を知り、手に入れることはできない。
「家」の性能を確かめるC値・Q値、
この2つが重要なポイントだと教えてくれました。
宿泊体験したり、実際に住まわれているオーナーさんの声を聞いてみてください。
スウェーデンハウスでたくさん質問して、たくさん試してみてください。
きっと「家」そのものがつくる「快適」を体験できますから。